

定期テストに向けて4 知識の“質”を高めるということ

明日で定期テスト1週間前を迎えます。ここからの7日間は、ただ勉強時間を増やすだけではなく、知識の“質”を高める学び方へと切り替える大切な期間です。七条中学校が大切にしている七条のプロセスの中でも、「理解する」「つなぐ」「使う」という姿勢が、テスト前の学習で最も力を発揮します。今回の学校だよりでは、知識の質を高めるとはどういうことか、具体例を交えながら皆さんに伝えます。

■ 英語の学びから見える“質”

英単語を覚えるとき、ただ暗記するだけでは質は上がりません。たとえば transport という単語を学ぶとき、●語源を調べる (trans=越えて、port=運ぶ) ●自分で例文を作る ●関連語とつなげる (import / export など) こうした学び方をすると、単語が“点”ではなく“線”としてつながり、忘れにくく、使える知識になります。

■ 数学の学びから見える“質”

一次関数の公式 $y=ax+b$ を覚えるだけでは不十分です。●a が傾きを表す理由を説明できる ●b が切片になる理由を図で示せる ●実生活の場面に当てはめる (タクシー料金、気温の変化など) 公式が“使える道具”に変わったとき、知識の質は大きく高まります。

■ 理科の学びから見える“質”

光合成の仕組みを覚えるだけでなく、●なぜ光が必要なのか ●地球環境とのつながり。まで考えることで、知識は“世界の理解”へと広がります。

■ 社会の学びから見える“質”

歴史でも同じです。「鎌倉幕府は1185年」だけでなく、●なぜ武士の時代が始まったのか ●その変化が人々の生活に何をもたらしたのか。を考えることで、歴史は“暗記科目”から“思考科目”に変わります。

七条中の学びは、知識を増やすことが目的ではありません。知識を使える力を育てることが目的です。

【学んだことを自分の言葉で説明できるか。】【他の学びとつなげられるか。】【実生活に応用できるか。】この3つを意識するだけで、皆さんの知識は“質”のあるものへと変わっていきます。知識の質を高めるとは、「学んだことを、自分の人生の武器に変えること」です。

定期テスト前のこの時期こそ、学び方を見直す絶好のチャンスです。ぜひ“質の高い学び”を意識しながら、1週間を積み重ねていきましょう。

奇数の節句、偶数はなぜない？

6月6日は「楽器の日」や「お稽古の日」と言われています。昔から「6歳の6月6日に習い事を始めると上達する」という言い伝えがあり、芸事を始める縁起の良い日とされてきました。しかし、3月3日のひな祭り、5月5日の端午の節句、7月7日の七夕のように、「節句」として広く知られている行事は、なぜか奇数月ばかりです。偶数月の節句はない。なぜだろう？——そう思って調べてみると、その理由は古代中国から伝わった「陰陽（いんよう）思想」にあることがわかりました。昔の中国では、すべてのものには「陰」と「陽」という二つの性質があると考えられていました。そして、数字についても、1・3・5・7・9の奇数は「陽」、2・4・6・8などの偶数は「陰」とされていたのです。そのため、3月3日、5月5日、7月7日、9月9日など、奇数が重なる日は「陽」の力が強くなる特別な日と考えられました。現在の「五節句」も、この考え方から生まれています。本来の五節句は、1月7日の「人日（じんじつ）」、3月3日の「上巳（じょうし）」、5月5日の「端午（たんご）」、7月7日の「七夕（たなばた）」、9月9日の「重陽（ちゅうよう）」です。ところが、昔の人々は「陽」が強すぎると、かえって災いや病気を招くとも考えていました。そのため、節句の日には、邪気を払ったり、健康や豊作を願ったりする行事が行われるようになったのです。たとえば、3月3日にはひな人形を飾って厄払いをし、5月5日には菖蒲を使って無病息災を願いました。一方、2月2日や4月4日、6月6日、8月8日などの偶数が重なる日は、「陰」の気が重なる日と考えられました。「陰」には、静けさや安定という意味もありますが、祝いの日としては「陽」ほど重視されなかったため、大きな節句として定着しなかったようです。私たちが毎年親しんでいる伝統行事には、昔の人々の自然への願いや、健康を大切に思う知恵が込められています。普段何気なく過ごしている季節の行事も、その由来を調べてみると、歴史や文化の面白さに出会えるかもしれません。